

みんなとともに笑顔いっぱい — 「101」 新たなるステージへ —



# みんなとともに



いよいよ明日は「清明フェスティバル」です。「運動会」から名前と内容を変えることは、新型コロナウイルス感染症の影響とは関係なく、今年度の計画に位置付けていたことでした。ただ、密を避けるために下学年と上学年に分かれる構成になったのは、“コロナ”への対応です。まずは、家では見ることのできないお子さんの様子をご覧ください。家に帰って楽しい話題になれば、うれしいです。



## 10月25日(日)に「創立百周年記念式典」を挙ります

— 「いま・ここ(清明小学校)」にいることに感謝して—

このコロナ禍で延期していた「創立百周年記念式典」が開催できる運びとなりました。これまで企画立案に携わっていただきました実行委員長の網代智明様を始め実行委員の皆様、またご支援をいただきました各町内会長様を始め地域の皆様、そして保護者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

なお、記念式典には、福島市長 木幡 浩様、福島市教育委員会教育長 古関明善様もお出でになり、祝辞をいただくことになっておりますので、ご紹介いたします。

### 【百年の歴史に見る“プチ自慢”】

◇ 前身は、「福島第五小学校」という“ナンバーズクール”である。

旧市内にある学校では、できた順番に、学校の名前に番号がついていた。逆に言うと、学校の名前に番号がついているというのは、“福島のある中心にある学校”ということになる。学校の位置や便利さ等を「ABC」で表す方法があるのだが、以前は「A」の中でも「特A」と表していた。

◇ 市内で最初にできた「鉄筋コンクリート校舎」である。

木造校舎ばかりのときに、市内でいち早く「鉄筋コンクリート」校舎になった。おそらく、周囲の地域から“羨望的”であったことだろう。

ということは、今では「市内で一番古い校舎」になってしまったということである。校長の私と“同い年”なのでだいぶカタがきているが、大切に扱っていききたいところである。

◇ 「みんなとともに」は素晴らしい校歌である。

学校訪問でお出でになった市教委の方に、本校の出身の方がいた。本校の校歌が大好きだそうである。(実は、訪問中2回も歌われた)特に2番が好きで、何かの事情で1番のみで終わると、とてもがっかりしたとのことである。「みんなとともに」の歌詞も曲も、とても素晴らしいと感じる。本校の子どもたちにピッタリの校歌である。

※ 昭和7年に市内の競技会で6年男子がリレーで優勝し、「市長賞」をいただいている。そのころも「陸上清明」だったのだろうか。

※ 昭和48年には「県PTA優良社会教育関係団体表彰」、昭和52年には「優良PTA文部大臣賞」を受けている。その当ても、本校PTAの活動は盛んであったようである。

### 【校長のつぶやき】 その47 「一芸に秀でる」

土曜日に、「博士ちゃん」という番組をやっている。サンドウィッチマンと芦田愛菜が出演している番組だが、ここに出てくる子どもたちがおもしろい。自分の好きなことを追究して、大人顔負けの知識を身につけている。例えば、「野菜」に“とことん詳しい”博士ちゃんだったり、「お城」に“とことん詳しい”博士ちゃんがいったりする。会津美里町に住む博士ちゃんは、「妖怪」に“とことん詳しくて”妖怪に関する本を5冊も自費出版したりしている。とにかく“とことん詳しい”のだ。

これまでの教育界は、「オールマイティ」な子どもを称賛してきた。通信票で言うと、「オール5」(小学校は「オール3」だか)を取るような子である。しかし、この変革期には、もしかすると「スペシャリティ」な子ども(大人)が求められているのかもしれない。

「一芸に秀でる」という言葉がある。何でもいから、自分の好きなことに“とことん”こだわって“とことん”のめり込んでみる。すると、“ポン”と突き抜ける瞬間がくる。その体験は人生において、とても貴重である。「博士ちゃん」は「誰もが一芸に秀でることができるよ」「みんなで一芸に秀でてみようよ」というメッセージを私たちに発しているような気がしている。